

- 問1 鎌倉幕府において、将軍から領地の所有権を認められるなどの恩恵を何という？
- 問2 鎌倉時代、朝廷やその有力な支援者たちが支配していた土地を何という？
- 問3 源頼朝が御家人たちに与えた、土地の領有権を認めたり保証したりする権利を何という？
- 問4 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？
- 問5 鎌倉時代に栄西によって伝えられ、曹洞宗とともに武士から厚い支持を受けた禅宗の宗派を何という？
- 問6 源頼朝の弟として、壇ノ浦の戦いで平氏を打ち破る中心的な役割を果たした人物は誰？
- 問7 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問8 鎌倉幕府の御家人が、軍役として警備を担当した場所をどこ？
- 問9 イタリア出身の旅行家で、フビライ・ハンに仕え、日本を『黄金の国ジバング』としてヨーロッパに紹介したのは誰？
- 問10 鎌倉時代に新しい仏教の一派である「時宗」を開き、布教活動を行った僧侶を何という？
- 問11 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？
- 問12 元を訪れ、その見聞を記録として残したイタリアの商人は誰？
- 問13 浄土真宗で重要視された、自分の修行力ではなく、阿弥陀仏の力によって救われるという考え方を何という？
- 問14 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問15 一遍が踊り念仏を通して信仰を広めた、浄土信仰の中心となる仏を何という？
- 問16 13世紀にモンゴル帝国を築き、後に日本へ侵攻を企てた人物は誰？
- 問17 元寇に備えて博多湾岸に築かれた、石造りの防壁を別名で何という？
- 問18 鎌倉時代の武士の間で広く行われていた、親の領地を子や女子などに分けて相続させる仕組みを何という？
- 問19 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？
- 問20 鎌倉幕府が、地方の軍事や警察、徴税を行うために設置した役職は守護と何か？
- 問21 鎌倉時代に、踊り念仏を広めて時宗を開いた僧侶は誰？
- 問22 1221年に幕府打倒を計画し、承久の乱を起こした上皇は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 御恩	御恩とは、将軍が御家人に対して行う経済的・地位的な保護のことです。主なものとして、先祖伝来の土地の所有を認める「本領安堵」や、手柄を立てた者への「新恩給与」がありました。これに対し、御家人は軍役（戦いの際の兵士としての務め）や京都・鎌倉の警備などの奉公を果たす必要がありました。
問2	答え 貴族	貴族は、朝廷の官職に就くことで権力を持ち、経済基盤として荘園を経営していました。鎌倉時代に入り、武士による政治（幕府）が成立すると、貴族の政治的影響力は徐々に低下していきましたが、京都を中心に高度な文化を保持し続けました。
問3	答え 御恩	「御恩」とは、将軍が御家人に対して本領の安堵（土地の支配権を認めること）や、新しい領地の供与を行うことです。これに対して御家人は「奉公」という軍役や警備の義務を負いました。
問4	答え 十字軍	1095年、ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけにより、聖地を奪還するための軍勢が組織されました。遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「十字軍」と呼ばれます。
問5	答え 臨済宗	臨済宗は、栄西が中国（宋）から日本に伝えた禅宗です。座禅を通じて自分自身を見つめ直し、悟りを開くことを目的とします。座禅の際に問いかけを用いる「公案（こうあん）」という独特の修行方法があるのが特徴です。
問6	答え 源義経	源義経は、一ノ谷の戦いや屋島の戦いなど、数々の戦いで創意工夫を凝らした戦術を用いて平氏を追い詰めました。最終的な決戦となった壇ノ浦の戦いにおいても、巧みな指揮で源氏の勝利を決定づけました。その武勇は伝説化され、日本で最も有名な英雄の一人となりました。
問7	答え モンゴル帝国	五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活発化させました。また、強大な軍事力を持って周囲の国々に服属を要求しました。
問8	答え 京都	御家人の重要な軍役の一つに、京都の警備を担う「京都大番役」があります。これは、将軍の命令により一定期間、京都へ赴き治安維持を行うものでした。他にも鎌倉周辺の警備も担当しており、これらは御家人が将軍に対して奉公を果たす具体的な役割でした。
問9	答え マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはベネチアの商人・旅行家で、元のフビライ・ハンに長く仕えました。帰国後に執筆した『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国ジパング」として紹介しました。これを見たヨーロッパの人々は、海路によるアジアへの関心を高めることとなりました。
問10	答え 一遍	一遍は浄土教の一派である時宗を開きました。彼は諸国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊念仏」や、念仏を記した札を配る「賦算（ふさん）」といった活動を行い、身分を問わず広く信仰を集めました。彼の活動記録は「一遍上人絵伝」として残されています。
問11	答え 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしづいじ）とも呼びます。
問12	答え マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロは父親らと共にヴェネツィアを出発し、数年かけてモンゴル帝国の都である大都に到着しました。彼は約17年間フビライ・ハンに仕え、中国全土を巡察して貴重な情報を得ました。帰国後に執筆された『東方見聞録』では、東洋の富の凄まじさや、日本の存在について詳細に記しました。
問13	答え 他力本願	他力本願は、自分の力で修行（自力）に頼るのではなく、すべてを阿弥陀仏の力（他力）に任せて救いを求める考えです。親鸞はこの姿勢こそが真の信仰であると説き、出家せずただ念仏を唱えるだけで救われる道を提示しました。
問14	答え 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶らと共に制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問15	答え 阿弥陀仏	阿弥陀仏は、無限の寿命を持ち、すべての生き物を救う仏と信じられていました。鎌倉時代には、念仏を唱えるだけで救われるという考えが民衆に受け入れられ、一遍のような僧侶たちが熱心に信仰を普及させました。
問16	答え フビライ	第5代皇帝フビライ・ハンは国号を「元」と改め、大都（現在の北京）を拠点に東アジアの覇権を握ろうとしました。彼は日本に対しても外交使節を派遣して服属を求めましたが、幕府がこれを拒否したため、1274年の文永の役と1281年の弘安の役という2度の遠征軍を日本に送りました。
問17	答え 防塁	防塁（石築地）は、博多湾岸に長さ約20kmにわたって築かれた石の壁です。これにより、元軍の得意とする騎馬戦術や集団行動を封じ込め、日本軍が待ち伏せや遠距離からの弓矢攻撃を行いやすい環境を作りました。鎌倉幕府の組織力と御家人の動員力が発揮された代表的な防衛事業です。
問18	答え 分割相続	親が持つ領地を、男子だけでなく女子にも分けて相続させるのが一般的なルールでした。当時は女性も地頭として土地を管理する権利を持っており、家族が協力して家を支える社会構造が一般的でした。
問19	答え 金剛力士像	東大寺南大門に配置された金剛力士像は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。筋肉の盛り上がりや血管の浮き出た表現、衣のひだの動きなど、極めて写実的で生命感あふれる特徴を持っています。
問20	答え 地頭	守護は各国の軍事指揮や治安維持を行い、地頭は荘園や公領の管理、年貢の徴収を行いました。これにより、幕府は朝廷の権限が強い地域にも介入できるようになりました。地頭の中には、横暴な振る舞いをして農民や荘園領主とトラブルを起こす者も多く、幕府の権力基盤としての側面と、社会問題の原因という側面を持っていました。
問21	答え 一遍	一遍は全国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊り念仏」を行うことで、阿弥陀仏の教えを広めました。彼が始めた宗派は時宗と呼ばれ、身分に関係なく多くの民衆から支持を集めました。
問22	答え 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、自らを支持する武士たちを集めて幕府軍への反撃を試みました。しかし、北条政子の檄に応じた御家人たちの結束によって幕府軍が勝利しました。戦後、後鳥羽上皇は隠岐（現在の島根県）に流され、朝廷の権威は以前よりも大きく低下することとなりました。

- 問1 1221年に、朝廷の権力を取り戻すために鎌倉幕府を倒そうと挙兵した人物は誰？
- 問2 源頼朝の死後、将軍を補佐して幕府の実権を握った北条氏の役職を何という？
- 問3 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？
- 問4 後鳥羽上皇が鎌倉幕府の打倒を目指して挙兵し、敗北した事件を何という？
- 問5 鎌倉幕府が、地方の軍事や警察、徴税を行うために設置した役職は守護と何か？
- 問6 浄土真宗を開き、阿弥陀仏の力を信じる教えを説いた僧は誰？
- 問7 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？
- 問8 鎌倉幕府の将軍と主従関係を結び、御恩として所領を安堵された武士のことを何という？
- 問9 鎌倉時代に、承久の乱で朝廷側と戦い、勝利を収めた一族を何という？
- 問10 鎌倉幕府において、将軍が御家人に本領を安堵したり新恩を給与したりすることと、御家人が軍役などを果たすことの結びつきを何という？
- 問11 鎌倉時代、源頼朝が全国の荘園や公領の管理・年貢徴収をさせるために設置した役職を何という？
- 問12 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問13 浄土真宗において、武士以外に強く支持された、当時の生産活動を担う人々を何という？
- 問14 承久の乱を起こし、鎌倉幕府を倒そうと試みた上皇は誰？
- 問15 鎌倉時代に時宗を開き、踊り念仏で教えを広めた人物は誰？
- 問16 鎌倉時代に広まった新しい仏教の一つである時宗を開き、念仏を唱えながら踊るという布教方法をとった僧侶は誰？
- 問17 浄土宗の教えが急激に広まったことを警戒した旧仏教勢力との対立により、法然が讃岐へ流された出来事を何という？
- 問18 鎌倉幕府が京都の監視や西国の統治を目的として設置した機関を何という？
- 問19 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？
- 問20 鎌倉時代、元軍による侵攻の際に、従来の武士の戦法である一騎打ちを行うことで苦戦を強いられた、当時の武士階級の呼び名を何という？
- 問21 鎌倉幕府において、将軍が御家人の所領を保護・保証することを何という？
- 問22 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、倒幕を試みました。しかし、北条政子の演説により結束を強めた幕府軍の反撃にあい、上皇側は敗北しました。
問2	答え 執権	執権は、はじめは將軍の補佐役として置かれていましたが、北条時政が初代となって以降、北条氏が世襲するようになりました。執権政治のもとでは、將軍は形式的な存在となり、北条氏が実質的な幕府の最高指導者として全国を統治しました。
問3	答え 金剛力士像	東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。
問4	答え 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇が幕府の倒幕を狙って挙兵した事件を承久の乱と呼びます。北条政子の演説によって御家人たちが結集し、幕府軍は朝廷軍を圧倒しました。この乱の結果、幕府は朝廷の力を抑え込むことに成功し、天皇の廃位や配流を行う権限まで持つようになりました。
問5	答え 地頭	守護は各国の軍事指揮や治安維持を行い、地頭は荘園や公領の管理、年貢の徴収を行いました。これにより、幕府は朝廷の権限が強い地域にも介入できるようになりました。地頭の中には、横暴な振る舞いをして農民や荘園領主とトラブルを起こす者も多く、幕府の権力基盤としての側面と、社会問題の原因という側面を持っていました。
問6	答え 親鸞	親鸞は、自らの修行ではなく、阿弥陀仏の救いを純粹に信じることを強調しました。彼は妻帯（結婚）を許可するなど、当時の常識を打ち破る革新的な行動をとり、民衆の生活に入り込むような布教を行いました。これが「浄土真宗」として大成し、多くの信徒を惹きつけました。
問7	答え 鎌倉時代	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を湛えた文学が発展しました。鴨長明の『方丈記』のように、世の移り変わりや自然の厳しさを冷静に見つめる作品が数多く書かれました。
問8	答え 御家人	御家人は、將軍から領地の所有権を認められる「御恩」を受ける代わりに、京都や鎌倉の警備、合戦時の軍役といった「奉公」の義務を負いました。將軍と御家人の結びつきは「御恩と奉公」という主従関係で成り立っており、これが鎌倉幕府を支える強力なシステムでした。
問9	答え 北条氏	承久の乱が起こると、執権・北条義時のもとで幕府軍は京都へ進撃しました。北条政子の演説で御家人を鼓舞し、勝利を収めたことで、全国的な支配体制が確固たるものになりました。
問10	答え 御恩と奉公	將軍が武士（御家人）の土地の支配を保障することや、新しい土地を与えることを「御恩」といいます。対して、武士は京都や鎌倉の警備をしたり、戦いの際に軍役に務めたりする「奉公」を行いました。この相互の契約関係が幕府の統治の基盤となりました。
問11	答え 地頭	1185年、頼朝は朝廷から各地への「地頭」の設置を認めさせました。地頭は、荘園や公領において年貢の取り立てや、土地の管理・警察的な役割を担いました。これにより、幕府の権力が全国各地に及ぶようになり、武士が実質的な地方支配の主役となりました。
問12	答え 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶らと共に制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問13	答え 農民	親鸞の教えは、難しい経典を必要としないため、読み書きが苦手な農民にも広く浸透しました。当時の厳しい生活環境の中で、平等に救われるという教えは、人々の大きな支えとなりました。これにより、各地で門徒と呼ばれる信者の集団が形成され、大きな勢力となりました。
問14	答え 後鳥羽上皇	1221年、後鳥羽上皇は全国の武士に対して北条義時を討つよう院宣（命令）を出しました。しかし、幕府軍の迅速な対応により朝廷側は敗北し、上皇は隠岐へ流されました。
問15	答え 一遍	一遍は、踊りながら念仏を唱える「踊念仏」を行い、全国を旅して信仰を広めました。この教えは時宗と呼ばれ、形式にこだわらず、念仏を唱えることで誰でも極楽浄土へ行けると説きました。一遍が全国各地で念仏札を配ったことも、民衆の間で信仰が広まった大きな要因となりました。
問16	答え 一遍	一遍は時宗の開祖であり、念仏を唱えることが救済につながると説きました。特に「踊念仏」というユニークな布教活動を通じ、全国を回って信者を獲得しました。特定の教理を学ぶことよりも、ひたすら念仏を唱えるという平易な教えが特徴です。
問17	答え 承元の法難	1207年、法然の門弟が起こしたトラブルをきっかけに、旧仏教勢力は朝廷に働きかけました。その結果、法然は承元の法難によって讃岐（現在の香川県）へ流罪となり、多くの弟子も処分されました。これは、新しい教えと古い既得権益側の間の対立が深刻化した事件でした。
問18	答え 地方行政機関	1221年に六波羅探題が置かれ、そこには北条氏の一族が就任しました。単なる軍事施設ではなく、朝廷との交渉、京都の治安維持、西国の御家人の統率といった行政・司法の役割を担いました。
問19	答え 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしついで）とも呼びます。
問20	答え 御家人	彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。
問21	答え 所領安堵	所領安堵とは、御家人が持つ土地の支配権を將軍が保証する仕組みです。御家人は、將軍からこの御恩を受ける代わりに、戦場での戦いや京都の警備といった軍役に果たす義務がありました。この「御恩と奉公」の精神が、幕府の強力な支配体制を支える土台となりました。
問22	答え 方丈記	『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。

- 問1 鎌倉時代、源頼朝が全国の荘園や公領の管理・年貢徴収をさせるために設置した役職を何という？
- 問2 平氏の栄枯盛衰を描き、琵琶法師によって語り継がれた軍記物語を何という？
- 問3 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？
- 問4 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？
- 問5 日蓮が人々の救いとなるとして唱えることを推奨した「南無妙法蓮華経」という言葉を何という？
- 問6 鎌倉時代に宋から帰国し、臨済宗を日本に伝えた僧は誰？
- 問7 平安時代から存在した私有地で、その地からの収穫を主な収入源とした土地のことを何という？
- 問8 鎌倉時代に領地を複数の子に分けて引き継ぐ慣習を何という？
- 問9 13世紀後半、フビライ・ハンが日本へ向けて2度にわたり大規模な遠征軍を九州北部へ送った一連の戦いを何という？
- 問10 鎌倉幕府が土地管理や年貢徴収を行わせるために、各所に配置した役職を何という？
- 問11 『方丈記』や『枕草子』、『徒然草』を総称して何という？
- 問12 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問13 鎌倉時代に時宗を開き、踊り念仏で教えを広めた人物は誰？
- 問14 鎌倉時代末期に『徒然草』を著した人物は誰？
- 問15 北条泰時が制定した、日本最初の武家法の別名を何という？
- 問16 武士の気風を反映し、写実的で力強い特徴を持つ、鎌倉時代に栄えた文化を何という？
- 問17 鎌倉幕府を倒し、1334年から天皇中心の政治を復活させようとした天皇は誰？
- 問18 鎌倉時代、元軍による侵攻の際に、従来の武士の戦法である一騎打ちを行うことで苦戦を強いられた、当時の武士階級の呼び名を何という？
- 問19 鎌倉時代に広まった新しい仏教の一つである時宗を開き、念仏を唱えながら踊るという布教方法をとった僧侶は誰？
- 問20 承久の乱の後、朝廷の監視と西日本の武士を統制するために京都に置かれた機関を何という？
- 問21 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？
- 問22 承久の乱を起こし、鎌倉幕府を倒そうと試みた上皇は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 地頭	1185年、頼朝は朝廷から各地への「地頭」の設置を認めさせました。地頭は、荘園や公領において年貢の取り立てや、土地の管理・警察的な役割を担いました。これにより、幕府の権力が全国各地に及ぶようになり、武士が実質的な地方支配の主役となりました。
問2	答え 平家物語	『平家物語』は、平氏一族の栄華から壇ノ浦での滅亡までを描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な書き出しで始まり、無常観あふれる物語として広く親しまれました。盲目の琵琶法師が琵琶を奏でながら語り伝える形式で広まったため、多くの人々に愛唱されました。
問3	答え 栄西	栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。
問4	答え 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしついでい）とも呼びます。
問5	答え 題目	日蓮は『法華経』の功德を信じ、その題目である「南無妙法蓮華経」と唱えることこそが、最も確実な救済の手段であると説きました。これを「唱題（しょうだい）」と呼びます。
問6	答え 栄西	鎌倉時代は、激動の世の中で武士を中心に新しい仏教が求められていた時代です。宋に渡り修行した栄西は、帰国後に禅宗の一つである臨済宗を伝えました。彼はまた、宋から茶の種を持ち帰ったことでも知られ、日本における喫茶の習慣を広めるきっかけを作った人物としても有名です。その後、禅の教えは武士の気風と合致し、鎌倉を中心に広く浸透していきました。
問7	答え 荘園	荘園は、中央の有力者が支配する広大な土地です。土地からの収穫物である「年貢」を領主に納めることで成り立っていました。鎌倉時代には、この荘園に地頭が送り込まれたことで、元の持ち主である領主と地頭との間で支配権をめぐる対立が絶えなくなりました。
問8	答え 分割相続	分割相続とは、武士の家督を継ぐ際に、所有する領地を子供たちで等しく分ける方法です。当初は家が維持できていましたが、相続を繰り返すたびに一人の持つ土地が小さくなり、生活が苦しくなる武士が増えました。これが御家人の困窮を招き、幕府の権威が低下する一因となりました。
問9	答え 文永の役	1274年の文永の役と、1281年の弘安の役の2度、元軍が九州北部に襲来しました。元軍は火器などを用いた集団戦法で攻めてきましたが、御家人たちの奮戦や、暴風雨の影響もあり、幕府はこれを退けることに成功しました。
問10	答え 地頭	地頭は、荘園や公領において土地の管理、犯罪者の取り締まり、そして年貢の徴収を行うために配置されました。これにより、幕府は全国の武士を統制する強力なネットワークを得ました。
問11	答え 随筆	随筆は、決まった形式にとらわれず、筆者が感じたことや考えたことを自由な文章でまとめたものです。特に『方丈記』は鎌倉時代の不安定な世相を、『枕草子』は平安時代の貴族の美意識を、『徒然草』は鎌倉時代末期の洗練された価値観をそれぞれ鮮やかに描き出しています。
問12	答え モンゴル帝国	五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活発化させました。また、強大な軍力を持って周囲の国々に服属を要求しました。
問13	答え 一遍	一遍は、踊りながら念仏を唱える「踊念仏」を行い、全国を旅して信仰を広めました。この教えは時宗と呼ばれ、形式にこだわらず、念仏を唱えることで誰でも極楽浄土へ行けると説きました。一遍が全国各地で念仏札を配ったことも、民衆の間で信仰が広まった大きな要因となりました。
問14	答え 吉田兼好	吉田兼好（兼好法師）は、元は官職に就いていましたが、のちに仏門に入り、各地を旅しながら執筆活動を行いました。その代表作『徒然草』は、無常観や生活の知恵、日々の感想を独自の感性で綴った作品です。
問15	答え 貞永式目	この時に制定された法律は「御成敗式目」として知られていますが、制定された年号をとって「貞永式目」とも呼ばれます。貴族の慣習ではなく、武士たちの間に蓄積されてきた慣習を尊重したのが特徴で、武士だけでなく、当時領地を管理する上で法的保護を必要としていた人々にとっても重要な指針となりました。
問16	答え 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。
問17	答え 後醍醐天皇	後醍醐天皇は足利尊氏や新田義貞ら有力武士の協力を得て鎌倉幕府を滅ぼしました。その後、1334年に天皇による直接統治を目指す「建武の新政」を開始しました。
問18	答え 御家人	彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。
問19	答え 一遍	一遍は時宗の開祖であり、念仏を唱えることが救済につながると説きました。特に「踊り念仏」というユニークな布教活動を通じ、全国を回って信者を獲得しました。特定の教理を学ぶことよりも、ひたすら念仏を唱えるという平易な教えが特徴です。
問20	答え 六波羅探題	幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは朝廷や西国の武士を監視し、京都周辺の治安維持や裁判を行うための重要な出先機関でした。
問21	答え 金剛力士像	東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。
問22	答え 後鳥羽上皇	1221年、後鳥羽上皇は全国の武士に対して北条義時を討つよう院宣（命令）を出しました。しかし、幕府軍の迅速な対応により朝廷側は敗北し、上皇は隠岐へ流されました。

- 問1 東大寺南大門に安置されている、力強い表現が特徴の金剛力士像を制作した仏師は誰？
- 問2 日蓮が人々の救いとなるとして唱えることを推奨した「南無妙法蓮華経」という言葉を何という？
- 問3 1274年にモンゴル帝国が初めて日本を襲撃した戦いを何という？
- 問4 踊り念仏を広めながら全国を巡る一遍の様子が描かれている絵巻物を何という？
- 問5 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？
- 問6 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？
- 問7 鎌倉時代に時宗を開き、踊り念仏で教えを広めた人物は誰？
- 問8 鎌倉時代に広まった新しい仏教の一つである時宗を開き、念仏を唱えながら踊るといふ布教方法をとった僧侶は誰？
- 問9 『徒然草』のように、筆者が日々の出来事や感じたことを自由に書き留める文学形式を何という？
- 問10 鎌倉時代に、承久の乱で朝廷側と戦い、勝利を収めた一族を何という？
- 問11 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？
- 問12 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？
- 問13 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？
- 問14 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？
- 問15 後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして起こし、幕府がこれを鎮圧した戦いを何という？
- 問16 鎌倉時代に領地を複数の子に分けて引き継ぐ慣習を何という？
- 問17 平安時代末期に、ただひたすら念仏を唱える教えを説き、浄土宗を開いた僧は誰？
- 問18 1232年に日本初の武家法である『御成敗式目』を制定した、鎌倉幕府の第3代執権は誰？
- 問19 鎌倉時代、源頼朝が全国の荘園や公領の管理・年貢徴収をさせるために設置した役職を何という？
- 問20 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？
- 問21 『方丈記』や『枕草子』、『徒然草』を総称して何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 運慶	運慶は、それまでの仏像と異なり、筋肉の動きや表情の細部までリアルに表現する彫刻手法を確立しました。快慶らとともに制作した東大寺南大門の金剛力士像は、その写実的な表現の頂点といえます。この様式は、当時の人々に強い精神的なインパクトを与えました。
問2	答え 題目	日蓮は『法華経』の功德を信じ、その題目である「南無妙法蓮華経」と唱えることこそが、最も確実な救済の手段であると説きました。これを「唱題（しょうだい）」と呼びます。
問3	答え 文永の役	この戦いは文永の役と呼ばれ、元軍は対馬や壱岐を占領した後に博多湾に上陸しました。日本の武士は集団戦法を用いる元軍に苦戦しましたが、嵐の影響などで元軍が撤退したため、大きな戦禍は最小限に留まりました。
問4	答え 一遍上人絵伝	一遍上人絵伝は、時宗の開祖・一遍が各地を巡り、踊り念仏を唱えて多くの人々に救済を説く姿を描いています。当時の風景や服装、人々の様子が細部まで克明に描写されているのが特徴です。
問5	答え 十字軍	1095年、ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけにより、聖地を奪還するための軍勢が組織されました。遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「十字軍」と呼ばれます。
問6	答え 三大随筆	『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（吉田兼好）の3つを総称して「三大随筆」と呼びます。それぞれ平安時代中期、鎌倉時代初期、鎌倉時代末期に執筆されました。
問7	答え 一遍	一遍は、踊りながら念仏を唱える「踊り念仏」を行い、全国を旅して信仰を広めました。この教えは時宗と呼ばれ、形式にこだわらず、念仏を唱えることで誰でも極楽浄土へ行けると説きました。一遍が全国各地で念仏札を配ったことも、民衆の間で信仰が広まった大きな要因となりました。
問8	答え 一遍	一遍は時宗の開祖であり、念仏を唱えることが救済につながると説きました。特に「踊り念仏」というユニークな布教活動を通じ、全国を回って信者を獲得しました。特定の教理を学ぶことよりも、ひたすら念仏を唱えるという平易な教えが特徴です。
問9	答え 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式に縛られず、個人の内面や世の中に対する洞察を記すものです。鎌倉時代には吉田兼好の『徒然草』が、平安時代の清少納言の『枕草子』と並ぶ代表的な随筆として知られます。
問10	答え 北条氏	承久の乱が起こると、執権・北条義時のもとで幕府軍は京都へ進軍しました。北条政子の演説で御家人を鼓舞し、勝利を収めたことで、全国的な支配体制が確固たるものになりました。
問11	答え 貞永式目	制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。
問12	答え 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防塁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問13	答え 金剛力士像	東大寺南大門に配置された金剛力士像は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。筋肉の盛り上がりや血管の浮き出た表現、衣のひだの動きなど、極めて写実的で生命感あふれる特徴を持っています。
問14	答え 方丈記	『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。
問15	答え 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すよう命じましたが、北条政子の演説で結束した幕府軍が京都へ進軍し、朝廷軍を撃破しました。この勝利により、幕府の権力は決定的なものとなりました。
問16	答え 分割相続	分割相続とは、武士の家督を継ぐ際に、所有する領地を子供たちで等しく分ける方法です。当初は家が維持できていましたが、相続を繰り返すたびに一人の持つ土地が小さくなり、生活が苦しくなる武士が増えました。これが御家人の困窮を招き、幕府の権威が低下する一因となりました。
問17	答え 法然	法然は、ただ念仏をとこなえることで阿弥陀仏の救いを得られるという「専修念仏」の教えを掲げ、日本初の念仏専用の宗派である浄土宗を開きました。身分や学問の有無を問わず救われる教えは、人々に大きな希望を与えました。
問18	答え 北条泰時	北条泰時は、御家人の利益を守り、争いを解決するために「御成敗式目」を制定しました。これは武士社会の道徳に基づいた最初の法律であり、裁判の公平性を担保する役割を担いました。
問19	答え 地頭	1185年、頼朝は朝廷から各地への「地頭」の設置を認めさせました。地頭は、荘園や公領において年貢の取り立てや、土地の管理・警察的な役割を担いました。これにより、幕府の権力が全国各地に及ぶようになり、武士が実質的な地方支配の主役となりました。
問20	答え 栄西	栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。
問21	答え 随筆	随筆は、決まった形式にとらわれず、筆者が感じたことや考えたことを自由な文章でまとめたものです。特に『方丈記』は鎌倉時代の不安定な世相を、『枕草子』は平安時代の貴族の美意識を、『徒然草』は鎌倉時代末期の洗練された価値観をそれぞれ鮮やかに描き出しています。

- 問1 『方丈記』などの文学作品に色濃く反映されている、社会が安定せず、戦乱が絶えない世の中の状態を指す言葉は何？
- 問2 『東方見聞録』を記した、モンゴル帝国のフビライ=ハンのもとを訪れたイタリアの旅行家は誰？
- 問3 北条時宗が執権として防戦にあたった、大陸から攻めてきた軍勢を何という？
- 問4 源頼朝が全国に配置した、軍事・警察権を持つ役職である「守護」と、荘園や公領の管理・年貢徴収を担う役職をまとめて何という？
- 問5 鎌倉時代に、踊り念仏を広めて時宗を開いた僧侶は誰？
- 問6 鎌倉時代、幕府の打倒をめざして挙兵し、敗れて隠岐に流された人物は誰？
- 問7 十字軍の遠征が活発に行われた時期は、日本の歴史ではどの時代にあたる？
- 問8 承久の乱の後、朝廷の監視と西日本の武士を統制するために京都に置かれた機関を何という？
- 問9 鎌倉時代後半に、荘園領主や幕府の命令を無視して年貢を奪い、実力行使によって抵抗した集団を何という？
- 問10 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
- 問11 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？
- 問12 承久の乱で朝廷に勝利した後、鎌倉幕府が京都の朝廷を監視するために設置した役所を何という？
- 問13 鎌倉幕府が、地方の軍事や警察、徴税を行うために設置した役職は守護と何か？
- 問14 源氏が平氏を滅ぼした最後の決戦が行われた場所はどこ？
- 問15 後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして起こし、幕府がこれを鎮圧した戦いを何という？
- 問16 後鳥羽上皇が鎌倉幕府の打倒を目指して挙兵し、敗北した事件を何という？
- 問17 鎌倉幕府が京都の監視や西国の統治を目的として設置した機関を何という？
- 問18 鎌倉時代に東大寺南大門を再建し、大仏様の建築様式を取り入れた僧侶は誰？
- 問19 武士の気風を反映し、写実的で力強い特徴を持つ、鎌倉時代に栄えた文化を何という？
- 問20 将軍と御家人の関係において、御家人が果たすべき最も重要な任務の一つである、戦いに参加する義務を何という？
- 問21 モンゴル帝国による日本侵攻の際に、火薬を用いた兵器が使用されたのはいつ頃？
- 問22 浄土真宗を開き、念仏を唱えれば誰でも救われると説いた人物は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 乱世	「乱世」という言葉は、平穏ではない社会の荒廃や人々の不安な心理を表します。鴨長明は、当時の京都で起きた火災や地震などの災害を目の当たりにし、この乱世における人間の無力さを記録に残しました。
問2	答え マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはヴェネツィア出身の商人であり、中央アジアを通して元の都（大都）へ渡り、フビライ=ハンに仕えました。帰国後に投獄された際、同房の人物に語り聞かせたアジアの記録が『東方見聞録』としてまとめられました。
問3	答え 元軍	執権である北条時宗は、この要求を拒否しました。その結果、元は二度にわたって日本へ大軍を送り込みました（文永・弘安の役）。時宗は御家人を指揮し、激しい防戦を行いました。元軍の高度な戦術や兵器に苦戦しましたが、最終的に元軍は撤退しました。
問4	答え 守護・地頭	頼朝は、朝廷の許可を得て、各国に「守護」を、荘園や公領ごとに「地頭」を置きました。守護は軍事・警察・徴税などを指揮し、地頭は土地の管理や年貢の取り立てを行いました。これにより、全国的な武家による支配体制が整いました。
問5	答え 一遍	一遍は全国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊り念仏」を行うことで、阿弥陀仏の教えを広めました。彼が始めた宗派は時宗と呼ばれ、身分に関係なく多くの民衆から支持を集めました。
問6	答え 後鳥羽上皇	1221年、上皇は全国の武士に対して幕府討伐の院宣を出し、挙兵しました。これが「承久の乱」です。しかし、北条政子らの主導により幕府軍が迅速に対応したため、朝廷側は敗北しました。その結果、首謀者である後鳥羽上皇は隠岐へ流されることとなりました。
問7	答え 鎌倉時代	十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。
問8	答え 六波羅探題	幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは朝廷や西国の武士を監視し、京都周辺の治安維持や裁判を行うための重要な出先機関でした。
問9	答え 悪党	悪党は、荘園領主や幕府の統制を無視して、力づくで年貢の徴収を妨害したり、所領をめぐって紛争を起こしたりした武装集団です。武士だけでなく、土豪や農民が含まれることもありました。
問10	答え 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。
問11	答え 十字軍	1095年、ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけにより、聖地を奪還するための軍勢が組織されました。遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「十字軍」と呼ばれます。
問12	答え 六波羅探題	鎌倉幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは、単に京都の治安維持を行うだけでなく、朝廷の監視、さらには西日本の御家人の裁判や統率を担う重要な機関でした。これにより幕府の支配力は西日本にまで大きく広がることとなりました。
問13	答え 地頭	守護は各国の軍事指揮や治安維持を行い、地頭は荘園や公領の管理、年貢の徴収を行いました。これにより、幕府は朝廷の権限が強い地域にも介入できるようになりました。地頭の中には、横暴な振る舞いをして農民や荘園領主とトラブルを起こす者も多く、幕府の権力基盤としての側面と、社会問題の原因という側面を持っていました。
問14	答え 山口県下関市	1185年、現在の山口県下関市にあたる壇ノ浦で、源義経率いる源氏軍と平氏軍が激突しました。この戦いは海戦で行われ、幼い安徳天皇を連れていた平氏は敗北し、一族の多くが滅亡しました。
問15	答え 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すよう命じましたが、北条政子の演説で結束した幕府軍が京都へ進軍し、朝廷軍を撃破しました。この勝利により、幕府の権力は決定的なものとなりました。
問16	答え 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇が幕府の倒幕を狙って挙兵した事件を承久の乱と呼びます。北条政子の演説によって御家人たちが結集し、幕府軍は朝廷軍を圧倒しました。この乱の結果、幕府は朝廷の力を抑え込むことに成功し、天皇の廃位や配流を行う権限まで持つようになりました。
問17	答え 地方行政機関	1221年に六波羅探題が置かれ、そこには北条氏の一族が就任しました。単なる軍事施設ではなく、朝廷との交渉、京都の治安維持、西国の御家人の統率といった行政・司法の役割を担いました。
問18	答え 重源	重源は朝廷や幕府の協力を得て、東大寺の再建という大事業を主導しました。その際、中国（宋）の新しい技術である「大仏様（天竺様）」を導入し、太い木材を組み合わせて強度を高める力強い建築を行いました。この様式は、当時の武士の気風や鎌倉時代のたくましい文化を象徴するものとなりました。
問19	答え 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。
問20	答え 軍役	御家人の重要な義務が軍役です。これは將軍から命じられた戦場に馳せ参じ、自ら武具を揃えて戦う義務のことです。これに加え、京や鎌倉を警備する番役などの奉公がありました。これらを通じて、御家人は自分の領地を守り、主君からさらなる恩賞を得ることを目指しました。
問21	答え 十三世紀後半	十三世紀後半の二度にわたる元寇において、元軍は日本軍とは異なる戦法をとりました。特に、当時の日本では馴染みのなかった火薬兵器を使用し、武士たちを大いに苦しめました。
問22	答え 親鸞	親鸞は、法然の弟子として活動し、阿弥陀仏の救いを信じて念仏を唱えれば、罪深い人間であっても救われるという「悪人正機説」を説きました。門徒を自称する人々を中心に、武士や農民へ広く浸透しました。自身の教団を組織し、絶対他力を強調した点が特徴です。